

平成 30 年 3 月 15 日

各 位

会 社 名 株 式 会 社 ロ ゼ ッ タ
代 表 者 名 代 表 取 締 役 五 石 順 一
(コード番号：6182)
問 合 せ 先 取 締 役 執 行 社 長 C00 鼓 谷 隆 志
兼グループ管理本部長 (TEL. 03-6685-9570)

特別損失（減損損失）の計上および配当予想の修正に関するお知らせ

当社は、平成 30 年 3 月 15 日開催の取締役会において、平成 30 年 2 月期（平成 29 年 3 月 1 日～平成 30 年 2 月 28 日）における特別損失（減損損失）の計上を決議いたしました。これに伴い、平成 29 年 4 月 14 日に公表いたしました平成 30 年 2 月期の配当予想を、下記の通り修正いたしましたのでお知らせいたします。

記

1. 特別損失（減損損失）の計上について

(1) のれんの減損処理による特別損失（連結決算）

平成 28 年 9 月 1 日に完全子会社化した株式会社エニドア（以下「エニドア」といいます）は、2 期続けて営業利益が当該事業の取得時に発生したのれんの償却相当額（年間 60 百万円）を下回って推移し、平成 30 年 2 月期はエニドア単体で赤字となることから、のれんの回収可能性について検討した結果、特別損失（減損損失）として 1,130 百万円を計上することとなりました。

(2) 連結子会社の減損処理による特別損失（個別決算）

上記の特別損失の計上を踏まえ、当社が保有するエニドアの株式について再評価を行い、関係会社株式評価損として約 1,200 百万円（※）を特別損失として計上いたします。なお、個別決算で計上されるこの特別損失は連結決算では消去されるため、連結業績に与える影響はありません。

（※）決算精査中のため現時点での概算額になります。

2. 平成 30 年 2 月期 配当予想の修正について

当社は、株主様に対する利益還元は経営上の最重要課題のひとつと認識しており、中長期的に利益成長を続け、利益水準及び内部留保の状況等を勘案し、適正な配当を実施することを基本方針としております。

しかしながら、上記の特別損失の計上により平成 30 年 2 月期の連結業績予想は、当期純損失となる見込みであり、誠に遺憾ではございますが期末配当を見送らせていただくことといたしました。

平成 30 年 2 月期 配当予想数値の修正（平成 29 年 3 月 1 日～平成 30 年 2 月 28 日）

	年間配当		
	第 2 四半期	期 末	合 計
前回発表予想 (平成 29 年 4 月 14 日発表)	/	5 円 00 銭	5 円 00 銭
今回修正予想	/	0 円 00 銭	0 円 00 銭
当期実績	0 円 00 銭	/	/
前期実績	0 円 00 銭	4 円 50 銭	4 円 50 銭

3. 業績に与える影響

平成 30 年 2 月期通期の連結ならびに個別業績については、現在前述の特別損失を織り込んで精査中であるため、判明次第速やかにお知らせいたします。

4. 今後の取り組みについて

減損処理の直接的な理由はエニドアの売上の大幅な減少による収益力悪化ですが、さらに市場の背景として、機械翻訳の急激な精度向上により、機械翻訳が高度な専門性や品質を要求しないローエンド翻訳に取って代わることでクラウド翻訳市場が縮小傾向にあるという状況もあります。よって既存のエニドアのビジネスモデルでは業績の回復は不可能であり、エニドアの第一幕としては減損処理で閉じるべきと判断いたしました。

一方で、当社MT事業では、平成29年11月末にリリースいたしました高精度機械翻訳『T-400(ver. 2)』の新規受注が大幅増加の好調な滑り出しとなっており、エニドアの第二幕としては、『T-400』と連動した機械翻訳後の人手によるリライト事業という新しいビジネスモデルへの転換を行います。平成30年2月にリリースした新サービス『1円翻訳【A I & CROWD】』はその皮切りとなるものです。平成31年2月期につきましては、グループ全体で業績を早期に反転させ、通期では連結ベースで売上・利益ともに過去最高額を目指します。

以上